



拡大写真

大黒岩(含化石チャンネル堆積物)(金沢地内)

私のまちの
近い
世界遺産

▶ 問い合わせ
国生涯学習課
☎0287(37)5419

岩は何にもイワないけれど
～過去からのメッセージ～

令和2年3月31日に大黒岩(含化石チャンネル堆積物)が栃木県の天然記念物に指定されました。それを記念し、今回は岩や石の文化財を紹介し

今から約1200万年～約1000万年前の中新世中期ごろ、日本の海岸線は今と大きく異なっていました。本県は現在海なし県ですが、かつて八溝山地と足尾山地の一部以外はほぼ海だったため、県内各地からこのころの化石が産出します。中でも塩原地域は日本を代表する化石産地の一つで、日本の古生物研究が始まったところから多くの研究者が調査を行ってきました。塩原地域で産出する化石の多くは貝類で、塩原動物群と呼ばれています。これが産出すると、かつてこの場所が沿岸域で冷涼な気候だったと類推され、この時代の日本の貝類動物群の指標になります(近年では調査が進み、暖流系動物群の特徴種につながる系統も報告

されています)。さらに、化石を含む堆積物の土の粒が細かいと沖合だったことを示し、粒が大きいと沿岸であったことがわかります。大黒岩には、隣接する同時期の堆積物とは異なった特徴の堆積物が含まれています。隣接する堆積物より粒が大きく(含礫砂岩・粗粒砂岩)、そこに含まれる貝類化石が2枚そろっていなかったり割れていたり、殻がバラバラだったりすることから、別の場所(より浅い海底)から流されて積もったものと考えられます。大黒岩は沖合の貝類化石と沿岸域の貝類化石が一つの場所にまとまり、この地域を特徴づける化石を豊富に含み、学術的な価値が高いため、県の天然記念物として指定されたのです。

Topic

自然が作り出す結晶
「塩原の材木岩」

溶岩やマグマは冷えて固まる時、少しかだけ体積が小さくなって縮みます。冷えていく過程で五角形や六角形の柱状の割れ目ができます。これを柱状節理といいます。溶岩が川の流れて浸食されたり、地下にあったマグマが隆起して地表に姿を現したりと、その中にできていた柱状節理が私たちの目の前に現れます。「塩原の材木岩」は、その名のとおり材木のような形をしています。箒川の布瀧左岸には一面の柱状節理をみる事ができ、代表的な景勝地となっています。

